



# 浅间山北麓 ジオパーク 基本計画

Master plan

2021-2025

2021年5月 改定

浅间山ジオパーク推進協議会



## 目次

---

はじめに	3
ジオパークの基本概念	4
目的	7
エリアとサイト	8
目指す姿	11
活動の領域と方針	14
マイルストーン(ステップとターゲット)	18
運営体制	20
予算計画	22

# はじめに

## 基本計画の位置づけ

---

本計画は、浅間山北麓ジオパークが目指す基本的な姿を明らかにし、取り組みの方向性を示すものです。

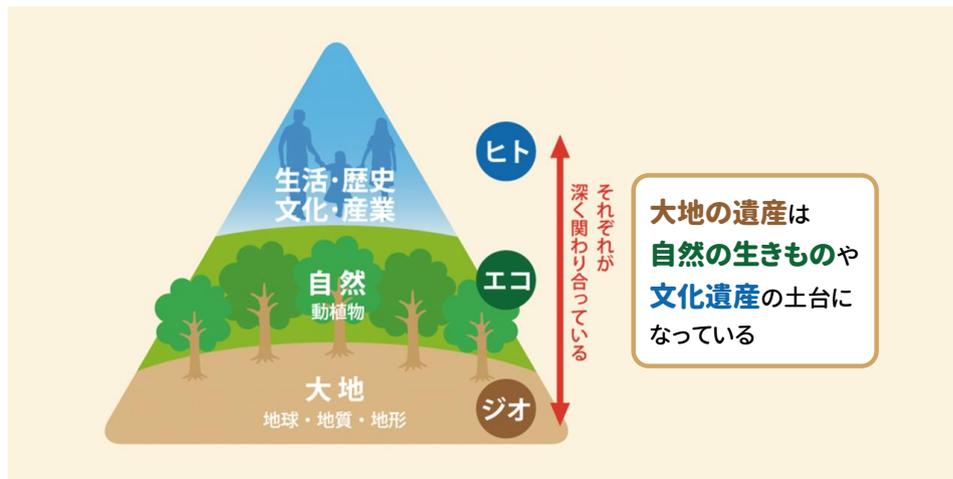
本計画は日本ジオパーク委員会による再認定審査の結果や社会情勢の変化等を踏まえ、ジオパークのエリアを構成する自治体の総合計画・総合戦略との関連を考慮しながら、5年ごとに見直しを行うこととします。

本計画の推進を図るための具体的な取り組みは、行動計画(アクションプラン)により定めることとします。

# ジオパークの基本概念

## ■ ジオ・エコ・ヒト

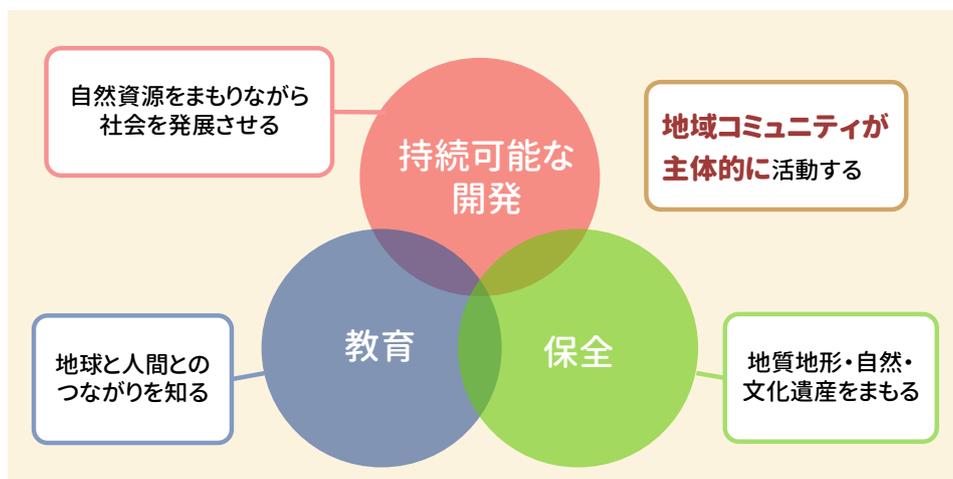
ジオパークは、地質学的重要性を有する地質遺産と、地域の自然・文化遺産との関連付けを促進し、**地形・地質の多様性が、すべての生態系の基礎であり、景観と人間のいとなみの相互作用の根幹となっている**ことを明瞭に示します。



素材の 3 要素

## ■ ボトムアップアプローチ

ジオパークは、地質学的重要性を有する地質遺産を、**地域コミュニティが主体となって**保全し、教育やツーリズムに活用しながら、私たちが暮らす変動する地球環境の中で、社会が直面している重要課題への意識と理解を高めます。



活動の 3 要素

## ■ ジオパークの重要な要件

- 1 価値のある地質遺産**  
学術的に価値のある地質遺産がある。
- 2 管理運営**  
エリア全体を扱うために適切な能力を持った法的位置づけのある団体による管理運営。
- 3 可視性**  
来訪者も地域住民もジオパークに関する情報が見つけれれる。
- 4 ネットワーク活動**  
ジオパークのネットワークに参加して、ジオパークの品質向上のために協力する。

## ■ 10の焦点とSDGs

- 1 天然資源**  
環境と景観との調和への敬意を促進し、天然資源の持続可能な利用の必要性を伝えます。
- 2 地質災害**  
火山、地震、津波などの地質災害に対する意識を高め、防災・減災対策に役立つ情報を提供します。
- 3 気候変動**  
地域によっては、気候変動の影響を知るための野外博物館として、気候変動はどのように私たちがとりまく環境に影響しているのかを見学者に示すことができます。
- 4 教育**  
地質遺産とそれに関連する自然、文化、無形遺産とのつながりに対する意識を広げるため、あらゆる年代を対象とした教育活動を展開します。
- 5 科学**  
地球とその成り立ちについて知識を深めるために、科学研究を奨励し、学術機関と協力します。
- 6 文化**  
「地球遺産をたたえ、持続可能な社会をつくろう」をモットーに、コミュニティと地球とのつながりを探求します。

7

**女性**

女性の社会的地位向上のために、教育プログラムおよび地元の小規模産業や工芸品の開発・育成・促進を支援します。

8

**持続可能な開発**

ジオパークは持続可能な開発のための計画を持ち、その最良な実践を奨励します。

9

**地域および先住民の知恵**

地元の人々や先住民の文化を保存し、たたえながら、彼らを積極的に参画させます。

10

**地質遺産の保全**

ジオパークで定義された地質遺産サイトは、法および適切な機関との協働によって保護されます。ジオパークは化石、鉱物、研磨された石、装飾用岩石などの地質物品の販売に直接関わってはならず、それらの非持続可能な流通をやめさせます。

ジオパークの活動の焦点は、SDGsに関連付けられるものです。

「SDGs(エスディーゼーズ)」とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月に国連サミットで採択された、国際社会共通の目標です。2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットからなります。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



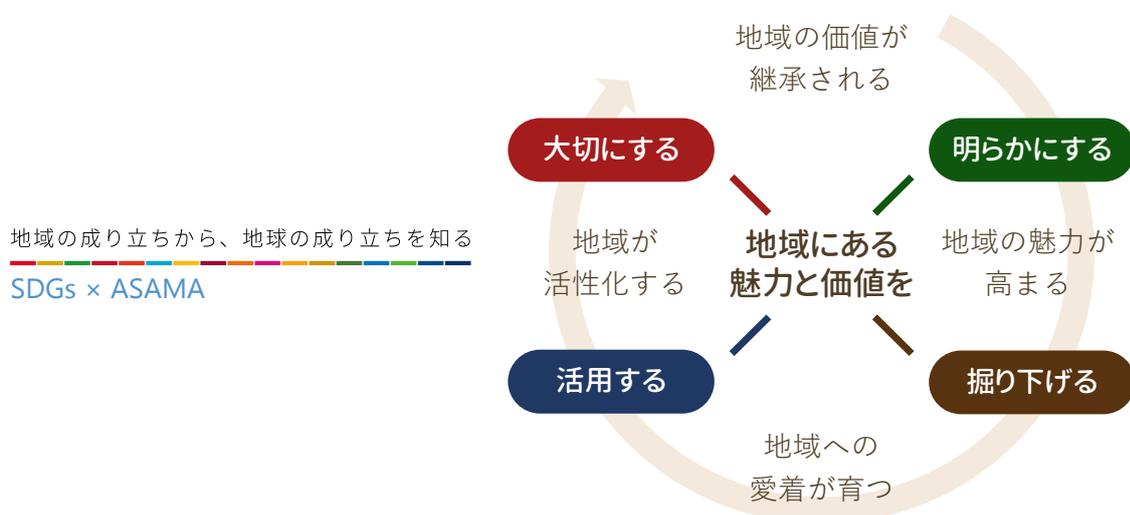
## 目的

浅間山北麓ジオパークは、地域に存在する大地の遺産を、地域住民、行政、研究機関、民間団体等が協働して保全するとともに、教育やツーリズムへの活用を通して、地域の資源を持続的に利用したり、気候変動の影響を緩和したり、自然災害への影響を軽減したりするなど、現代社会が直面している重要課題への意識と理解を高め、自然と調和した持続可能な地域社会を発展させていくことを目的とします。

当地は浅間山の火山活動の影響を受け、過去から大きな変動を繰り返してきた大地の上にあります。そこには美しい景観がひろがり、多様な生きものがくらしています。温泉や牧場があり、高原野菜の産地が広がり、さわやかな風と緑に誘われて、集い、憩う人々の姿があります。これらはみな、国内有数の活動的な火山である浅間山と深く関わっています。

一方で、火山の活動はときに災害となって現れます。とりわけ、1783(天明3)年に発生した、浅間山の大規模噴火とそこからの復興は、当地の歩みを象徴し、世代を越えて語り継がれる地域の記憶となっています。

私たちは、人間に「恵み」と「畏れ」をもたらす大地の多面的な価値を、地域にある魅力と結びつけて、明らかにする→掘り下げる→活用する→大切にする、という一連のサイクルを通して、大地の遺産をたたえ、持続可能な世界のための行動変容を、この地域から考えていきます。



### SDGs 推進キャッチフレーズについて

浅間山北麓ジオパークは、世界の課題を地域の身近な事例から学ぶことができる場所と機会を提供し、SDGs に貢献します。

地域の成り立ちから、地球の成り立ちを知る  
SDGs × ASAMA

# エリアとサイト

## 基本情報

面積(km <sup>2</sup> )	280 km <sup>2</sup>
人口	約 14,800 人(2021 年 4 月現在)
構成市町村	群馬県嬭恋村、長野原町

## 沿革

2013 年 12 月 2 日	日本ジオパークネットワーク準会員
2016 年 2 月	浅間山北麓ジオパーク構想基本計画策定
2016 年 9 月 9 日	日本ジオパーク認定
2021 年 2 月 5 日	日本ジオパーク再認定 「ハツ場あがつま湖」を新たなサイトとして追加(のち、サイトからビューポイントへ仕分け)

## 地質学的特徴

浅間山北麓ジオパークのエリアは、現在も活発に活動している火山である浅間山の火山噴出物が堆積してきた大地の上にあります。浅間山は黒斑・仏岩・前掛の各火山からなる安山岩質の複合火山で、北海道西南部から東北地方を縦断し、榛名山に至る火山前線と、伊豆諸島から北上して富士山・八ヶ岳へ伸びる火山前線との接合点に位置しています。現在活動している前掛火山は、西暦 3~4 世紀頃、1108 年、1783 年に大規模な噴火を起こしました。1783 年の噴火では、火砕流、溶岩流、土石なだれが発生し、山麓の北面を中心に甚大な被害をもたらしました。土石なだれの一部は吾妻川に流れ込み、泥流となって流域一帯に水害をもたらし、降灰は銚子や江戸にまで達するなど、噴火の影響は関東の広範囲に及びました。この噴火については豊富な記録や遺構、伝承が残っています。特に被害の大きかった鎌原地区では、230 年以上にわたってこの災害を語り継いでいます。

山麓は開けた台地や緩傾斜の高原地形が発達し、世界的に見て分布が偏在している黒ボク土がみられます。これらの地形・地質を生かして高原野菜が栽培され、地域の特産品になっています。また、火山がつくり出す美しい景観と温泉、夏のさわやかな気候は、この地のリゾート文化の形成に大きな役割を果たしています。

## エリア

浅間山北麓ジオパークのエリアは、嬭恋村の吾妻川より右岸の地域および長野原町全域とします。また、エリア外にガイド活動が波及していることから、実際の活動に合わせたエリアの見直しを行なっていきます。



## 拠点施設等

エリア内の施設は、管理運営機能を持つ「総合拠点施設」、博物展示機能を持つ「拠点施設」、情報提供機能を持つ「ビジターセンター」に分けられます。

コア施設	総合拠点施設	H：総合インフォメーションセンター
	拠点施設	E <sup>m</sup> ：嬭恋郷土資料館 F <sup>m</sup> ：やんば天明泥流ミュージアム
サテライト施設	ビジターセンター	A：高峰高原ビジターセンター B <sup>1</sup> ：浅間園 B <sup>2</sup> ：鬼押し出し園 C：北軽井沢観光協会 D：鹿沢インフォメーションセンター E：嬭恋村観光案内所 F：道の駅八ッ場ふるさと館

## サイト一覧

**G** = 地形・地質 (ジオ) [20]   **E** = 生態系 (エコ) [3]   **C** = 文化 (カルチャー) [15]

**V** = ビューポイント [1]

A 山頂	G	E	C	V
A1 千トン岩	G			
A2 トーミの頭	G			
A3 シラハゲ	G			
A4 トーミ断層	G			

B 鬼押し出し	G	E	C	V
B1 鬼押し出し溶岩	G			
B2 吾妻火砕流	G			
B3 浅間山溶岩樹型	G			
B4 蜀山人の碑			C	
B5 上の舞台溶岩	G			
B6 下の舞台溶岩・黒豆河原溶岩	G			
B7 六里ヶ原の火山荒原	G			
B8 浅間高原しゃくなげ園		E		

C 北軽井沢	G	E	C	V
C1 浅間大滝・魚止めの滝	G			
C2 旧草軽電鉄北軽井沢駅舎			C	
C3 六里ヶ原の道しるべ観音			C	
C4 浅間牧場			C	
C5 流れ山(応桑岩屑なだれ)	G			
C6 古瀧	G			

D 湯の丸	G	E	C	V
D1 湯の丸レンゲツツジ群落		E		
D2 鹿沢温泉・新鹿沢温泉			C	
D3 鹿沢園地		E		
D4 たまだれの滝	G			
D5 百体観音			C	
D6 烏帽子・浅間火山群	G			
D7 孀恋農場			C	

E 鎌原大笹	G	E	C	V
E1 鎌原村・鎌原観音堂			C	
E2 鎌原用水			C	
E3 孀恋高原キャベツ畑			C	
E4 浅間軽石流	G			
E5 追分火砕流	G			
E6 古孀恋湖	G			
E7 大笹の関所・抜道の碑			C	
E8 鎌原城址			C	

F 吾妻川	G	E	C	V
F1 雲林寺			C	
F2 常林寺			C	
F3 旧新井村			C	
F4 丸岩	G			
F5 吾妻峡	G			
F6 ハッ場あがつま湖				V

サイト数: 38

ビューポイント数: 1

## 目指す姿

### ビジョン

火山が作り出す風景には、人を感動させる力があります。

火山活動によってつくられた風景からリゾート地が生まれ、噴火によってできた大地の芸術的な造形を、多くの人々が興味深く眺めています。

火山が作り出す変化に富んだ環境は、様々な種類の生きものを養い、麓に湧き出すすばらしい温泉は、私たちに心地よいひと時をもたらします。

噴火によって出てくる土砂は窪地や谷を埋め、そこになだらかな地形をつくります。それは起伏の多い日本にくらす私たちにとって貴重なものです。

火山灰には農作物の生産に欠かせないミネラルが含まれています。また、火山の内側にはたくさん隙間があって、そこには多くの水が蓄えられています。水はきれいに、冷たく、おいしくなって、麓に湧き出します。

溶岩や火砕物は、様々な場面で利用される材料にもなります。縄文時代には石器として、現代では石垣や庭園などに、それらは利用されています。

火山の麓には、火山とともにくらしてきた人々の歴史があります。噴火による災害と復興についての記録と伝承には、そこに生きている人間のドラマが描かれています。それをひもとけば、山麓の人々は火山をただ恐れるだけでなく、郷土の山として敬ってきたことがわかるでしょう。

私たちは、これら火山がもたらす「恵み」と「畏れ」を内包する浅間山に焦点を当て、長い時間をかけて形づくられた大地への敬意のもとに、火山地帯に適応したくらしと、知的探究心を育むリゾート文化が、浅間山とその山麓全体にわたって持続可能なかたちで展開していく社会を目指します。

## テーマ

メインテーマ 浅間山とともに未来へ

サブテーマ 災害と復興がつなぐ人々の営み

浅間山北麓ジオパークのメインテーマは「浅間山とともに未来へ」、サブテーマは「災害と復興がつなぐ人々の営み」とします。この当地の歩みを象徴するテーマを核心に据えながら、私たちのビジョンと地質遺産の多様性を適切に表現していく観点から、複数のサブテーマを今後検討していきます。

## フォーカス

### 火山地帯に適応したくらしの先進モデルを実証的に探求します

- 当地のくらしの基盤は、活発に活動している火山である浅間山と不可分の関係にあります。平時における災害への備え、災害時の対応、被災後の復旧についての知見と経験を積み上げ、日本を代表する活火山を有する地域にふさわしい先進的な火山地帯適応モデルを実証的に探求していきます。
- 噴火の前兆をとらえやすい浅間山は「火山の優等生」と呼ばれ、火山防災の最前線を切り開いてきました。当地は気象庁による噴火警戒レベルの運用、火山防災協議会の設置、精密なハザードマップによる危険箇所の予測、火口から半径 4km 圏内の居住・営業の制限をすでに実現しています。これらの防災・減災基盤を生かしながら、火山防災協議会などと連携して防災・減災のための啓発と支援を行い、地域住民と利用者の迅速避難、および柔軟な復旧力のある地域社会の形成に貢献します。
- 災害発生時には、正確・迅速な情報発信による信頼醸成を図り、不安や不信から来る混乱を未然に防止していきます。

災害を過度におそれて風評被害が発生

↓

風評被害を過度におそれて情報を隠蔽

↓

不安と不信感から混乱・被害が拡大

これらを未然に防ぐには

**正確・迅速な情報発信による信頼醸成が不可欠**

## 自然とふれあい、知的探究心を育むリゾート文化を追求します

- ／ 私たちは、首都圏の保養地としてその利用動向に目を配り、自然の中に憩いと癒やしを求めて当地を訪れる人たちが、くつろいだ雰囲気の中でそれを受け取ることができるようにします。
- ／ この地に 230 年以上続いている天明噴火の災害伝承は、地域住民の心のよりどころや文化的アイデンティティに深く関わる大地への祈りの声です。私たちはこの大地に根ざす地域住民の思いを尊重し、未来に伝えます。
- ／ 私たちは地域にある自然の美しさと不思議に目を向け、それを表現します。それは地域のイメージを高め、知的探究心を育むものでなければなりません。

## 浅間山全体の持続可能な利用を推進します

- ／ 群馬県と長野県にまたがっている浅間山の、広域連携体制による保全と持続可能な利用の枠組み「環浅間保全利用圏」の実現を目指します。
- ／ 浅間山北面登山ルート of 整備を関係先に働きかけ、登山者の利便性を向上させます。
- ／ 私たちはこの地域が持つ地球科学的な価値を、国際社会に向けて明らかにし、異なるコミュニティ間の相互理解を深め、平和を築くことに貢献します。

# 活動の領域と方針

※ 指摘 x-x:2020 年再認定審査の指摘事項に関連する取り組み。

地質遺産の保全	13 気候変動に 具体的な対策を	14 海の豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう
			

大地の遺産をまもり、その価値を読み解き、環境保全への意識を高めます

## 《方針》

- 大地の遺産を保全するための方針を明らかにし、一般に向けてその理解浸透を図ります。
- 地質遺産の継続的なモニタリングと情報収集を行い、地域住民による保全活動を促進します。
- 学術機関と連携して、地質遺産の価値を明らかにする調査、研究を行います。

## 《取り組み》

1. 指摘 1-3 サイトを地質・生態系・文化・ビューポイントに整理する。
2. 溶岩樹型保全調査に連動した活用策を検討する。
3. 指摘 3-8 巨岩の浅間石について、保全の範囲を検討し、分布調査を行う。

教育普及	1 貧困を なくそう	4 質の高い教育を みんなに
		

地質遺産と自然、文化とのつながりを示し、持続可能な社会を発展させます

## 《方針》

- あらゆる年代を対象とした教育・研修プログラムの整備と受け入れ体制の拡充を進め、この地域が持つ地球科学的な価値とその持続可能な利用の必要性について学ぶ機会を幅広く提供します。
- 地域の子どもたちや住民が、自らの地域の魅力を発見し、その遺産を大切に、地域の自然の特性を生かした知恵や文化、技術が発展・継承されるよう支援します。

## 《取り組み》

1. 指摘 1-2 大地の遺産の持続可能な利用の必要性・人間の尊重・多様性の尊重・非排他性・機会均等など、ジオパークの理念と地域を関連づけて学ぶレクチャープログラムを充実させる。
2. 指摘 3-7 教育旅行の利用実態とニーズを把握し、対応した教材とプログラムを構築する。

## 防災・減災啓発



地質災害のリスクを減らし、柔軟な復旧力のある地域社会の形成に貢献します

### 《方針》

- 関係機関と連携して地質災害を軽減するために必要な情報提供や啓発活動を行い、地域住民と利用者の迅速避難、および柔軟な復旧力のある地域社会の形成に貢献します。
- 噴火災害の伝承と火山との共生を語り継ぎ、過去の歴史を生かし、将来の災害に備えます。
- 災害発生時においては、正確・迅速な情報発信による信頼醸成を図り、不安や不信感から来る混乱を未然に防止していきます。

### 《取り組み》

1. 指摘 3-7 火山防災協議会と連携し、その成果を防災・減災啓発に反映させる。
2. 災害伝承碑を調査し、情報をまとめる。
3. 発災時の行動計画を策定する。

## 自然享受とツーリズム



四季折々の自然とふれあい、その恵みを享受できる場所と機会を提供します

### 《方針》

- 年齢、性別、国籍、能力や立場に関わらず、できるだけ多くの人々が自然の恵みを享受できるようにします。
- 自然の持続可能な利用のために来訪者と地域住民の要望を調整し、観光・宿泊施設と連携しながら安全で質の高いツーリズムを推進します。
- 自然からのメッセージを読み解き、来訪者におもてなしの心をもって案内・解説ができるガイドを養成します。

### 《取り組み》

1. 公式ガイドブックを完成させ、刊行する。
2. 指摘 2-5 セルフガイドによる周遊に役立つツールを考える。
3. 浅間山北面登山ルート of 整備に向けた働きかけを行い、開通時を想定した登山者の安全確保策を検討する。



## イメージと情報発信

独自性を視覚的に表現し、情報をわかりやすく発信します

### 《方針》

- 浅間山北麓ジオパークは、その価値を直観的に伝えるメッセージとストーリーを持ち、その独自性を統一されたイメージやデザインで視覚的に表現します。
- 国内外のビジターの目線に立って、拠点施設等と連携しながら情報をわかりやすく伝えます。
- 対象に合わせた手段を用いて情報を発信し、資産として活用できる情報の蓄積を進めます。

### 《取り組み》

1. 視覚的な情報提供のための素材と手段を充実させる。
2. **指摘 2-5** 拠点施設等の活用と連携を推進する。
3. 多言語に対応した情報を提供する。



## コミュニティとネットワーク

多様なコミュニティとネットワークの力で相互の理解を深め、魅力を創出します

### 《方針》

- 世代間・地域間の交流を促進し、相互の理解を深めます。
  1. エリア内の地域連携
  2. 近隣観光圏との連携
  3. 他地域のジオパークとの連携
- 領域間の学際的連携により、魅力を創出し、コミュニティの活力を高めます。
  1. 地質、生物、文化の調和のための連携
  2. 科学と民俗・芸術が持つ価値を補完的に結びつけて、相乗効果を生み出すための連携

### 《取り組み》

1. **指摘 1-1** ジオパークのネットワークを通して、ジオパークの最新動向や参考となる事例の共有を図る。
2. 浅間山南麓地域との共同事業を推進する。

## くらしと産業



自然の持続可能な利用を通して、その恵みをくらしに役立てます

### 《方針》

- 天然資源の持続可能な利用、環境に配慮したものづくり・サービスの開発・普及を支援します。
- 自然の恵みを生かしながら経済機会を創出し、自然と共生する文化的で持続可能な人の営みを追求します。

### 《取り組み》

1. マーケティング調査に基づいた商品・サービスを企画・提案する。
2. 郷土食「くろこ」を活用する。

## 管理運営



機能的な運営体制を構築し、ジオパークの品質を確保します

### 《方針》

- ジオパークの運営には、地域住民、行政、民間団体、あらゆる利害関係者が関わり、その多様で強力なパートナーシップにより活動を推進します。
- ジオパークの活動推進に必要な専門的知見を有する専任職員の採用・配置を進めます。
- 地元住民の慣習や文化を尊重し、その声を管理運営に反映させます。

### 《取り組み》

1. エリアを実際の活動範囲に合わせて拡大する。
2. 以下の人材の採用・配置を進める。
  - **指摘 3-6** 地球科学の専門的な知識を有する者
  - 教育普及のための活動をコーディネートできる者
  - 関係する団体・個人と円滑な意思疎通がとれる者
3. 活動の継続性に結び付く人的交流と人材育成を促進する。

# マイルストーン（ステップとターゲット）

※ 指摘 x-x: 2020 年再認定審査の指摘事項に関連する取り組み





長期継続

ターゲット ユネスコ世界ジオパークを見据えた活動

《関連する主な取り組み》

ツーリズム-3 浅間山北面登山道整備事業

情報-3 多言語に対応した情報提供

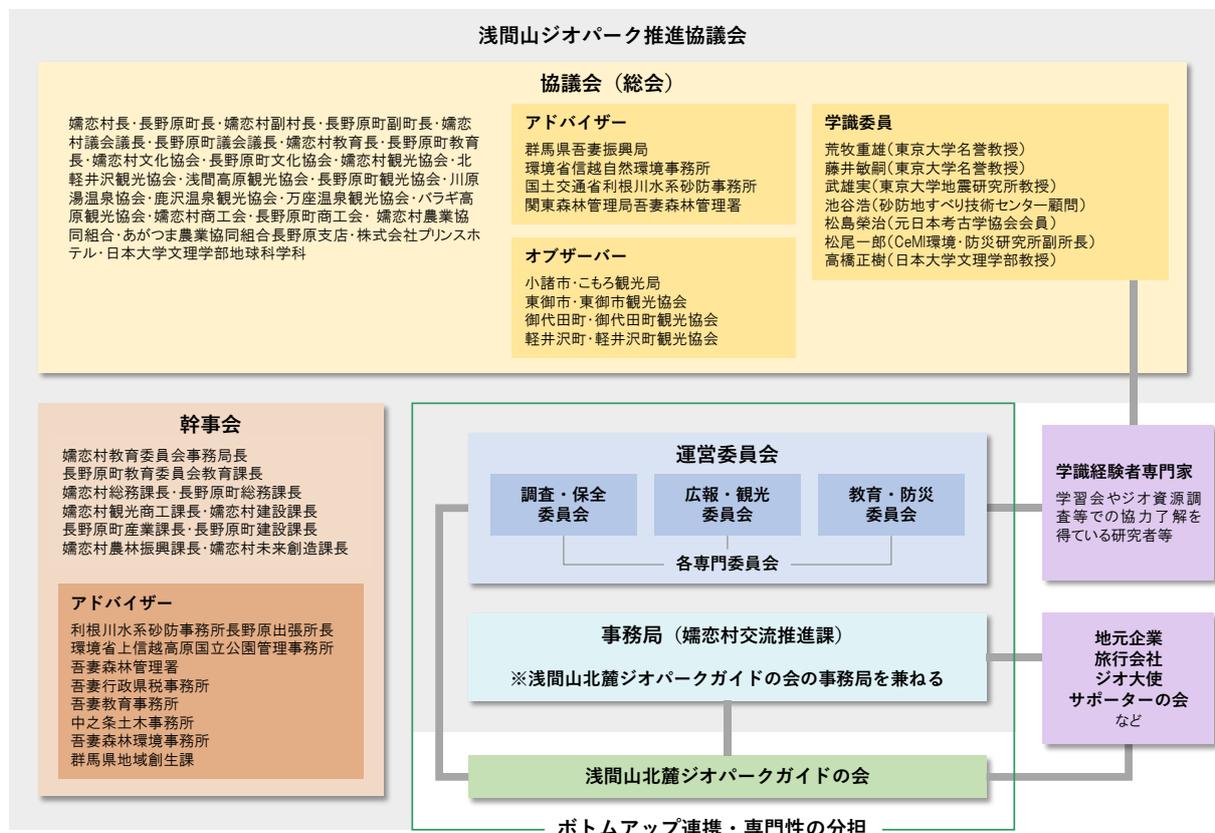
連携-2 南麓地域との連携推進・共同事業

# 運営体制

## 組織の名称

浅間山北麓ジオパークを運営する組織の名称は、「浅間山ジオパーク推進協議会」とします。

## 組織図



## 組織の機能と役割

### 協議会（総会）

運営にかかる検討事項を総括し、関係行政機関や、日本ジオパークネットワーク等のアドバイスを受けながら、運営の方向性や事業計画、予算、事業の推進にかかるすべての事項について決定する。

## 幹事会

協議会の運営と事業計画について、具体的な内容を審議する。

## 運営委員会

運営委員会は専門委員会、事務局で構成し、必要に応じて有識者に助言を求めながら、運営全般について協議・検討する。

## 専門委員会

事業の質の維持・向上を図るため、運営委員会の中に地域住民を主体とする専門委員会を置く。

### 1. 調査・保全委員会

主にジオパークサイトの保全状況の調査、保全活動への支援について、協議・検討を行う。

### 2. 広報・観光委員会

主にジオパークの対外的な情報発信、拠点施設等の連携、広報・マーケティング戦略について協議・検討を行う。

### 3. 教育・防災委員会

主にジオパークの教育および防災・減災啓発に関する企画と素材の作成について協議・検討を行う。

複数の分野にまたがる事項や各専門委員会単位での検討が困難な事項については、運営委員会の判断で特別委員会(プロジェクトチーム)を設けることができる。

## 事務局

ジオパークの事業計画に基づいて、各会議の運営、関係する団体・個人との連絡調整、決定事項の実施、活動へのサポート等を行う。

## 浅間山北麓ジオパークガイドの会

ジオパークガイドで構成し、地域資源を活用したジオツーリズムを推進し、会員間の情報交換や親睦交流を行う。また、運営委員会と調整を図りながら、ガイドツアーの企画ならびにモデルコースづくりや安全管理について、協議・検討を行う。

## 予算計画

本計画の推進にかかる経費は、構成市町村による負担、国・県などの行政機関による交付金および事業収入等をもって充当します。

協議会は本計画を達成するために、互恵的パートナーシップを基調とする、持続的な予算確保を目指します。

### 構成市町村による負担金

当ジオパークを構成する嬭恋村と長野原町の2町村は、ジオパークのための資金を負担する。負担割合の算出は以下による。

1. 合計予算額から交付金、事業収入およびその他の収入を除いた額の2分の1を均等割負担とする。
2. 合計予算額から交付金、事業収入およびその他の収入を除いた額の4分の1をそれぞれ人口割・面積割負担とする。

### 関係行政機関からの交付金

環境省の補助事業による補助金や群馬県の補助事業による補助金をはじめ、地域づくり、観光、教育、調査研究等に関わる補助金や助成金を活用し、ジオパークのための資金に充てる。

### 事業収入

ジオパーク活動に伴う以下の収入をジオパークのための資金に充てる。

1. ガイド事業による手数料収入
2. ジオパーク関連商品の販売収入

### その他の収入

協賛会員からの寄付金等。





## 浅間山ジオパーク推進協議会

〒377-1524 群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌原 494-45

E メール: [asama-geo@ebony.plala.or.jp](mailto:asama-geo@ebony.plala.or.jp)

TEL: 0279-82-5599